

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28年 12月 5日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3493500056		
法人名	株式会社 楽生舎		
事業所名	グループホーム新庄		
所在地	広島県山県郡北広島町新庄674-1 (電話) 0826-82-3252		
自己評価作成日	平成28年 11月 16日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3493500056-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成28年 12月 2日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

グループホーム周辺は自然にあふれ、四季折々の風情が楽しめます。また、近くに保育所や小学校、中高一貫校があり、学校行事への参加をさせてもらったり、訪問を受け交流を図っています。グループホーム横には畑があり、季節に応じた野菜を植え育て、調理して食べています。また、はぶ草や赤シソを植え育て、みんなで協力し、お茶やジュースにして飲んだりしています。近くの市民農園の畑を借りてサツマイモを植え、毎年、保育園の園児と一緒に収穫し、ふれあいの時を持っています。自然と触れ合いながら、入居者が昔とった杵柄を活かせるよう支援しています。地域の祭りや行事に参加したり、グループホームでのお楽しみ会を、年に2回開催し、地域の方を招いたりしています。地域ケア会議に参加し、地域に密着したサービスの提供を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

北広島の雄大な山あいであり、清々しい空気あふれる環境に恵まれた当グループホームは、近隣の保育園や学校の児童たちと交流を重ね、長年にわたり地域と共に穏やかな生活を育んでいる。すぐ傍には広い畑があり、利用者と共に家庭菜園を楽しみ、季節の野菜を一緒に収穫して味わっている。母体である医療法人は、北広島に多くの福祉施設を配し、医療面でのバックアップ体制が築かれ、利用者・家族の安心にも繋がっている。グループホームの職員共々、この土地をこよなく愛し、近隣住民とも自然なふれあいを通じて、利用者がその人らしく暮らし続けられるよう、ボランティアの受け入れをはじめ、様々なグループホームでの催しを企画し、交流を継続しながら、日々尽力している事業所である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人の理念、グループホームの理念を朝礼時と午後からの職員が来た時の、1日2回唱和を行い、念頭におきながらケアに努めるようにしている。グループホームでも勉強会に取り組みながら、実践につながる様に心がけている。	法人理念を基に「思いやりのある言葉づかい・行動」「快適な環境提供」「知識・能力の向上」などをグループホーム理念とし、職員全員で共有できるよう、日に二回唱和している。その中に、オアシス用語の唱和も取り入れ、接遇に関する意識を高める工夫や心構えの見直しもを行い、日々のケアにつなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	散歩時には挨拶や雑談をしたり、日常的なお付き合いが出来ている。地域での予防体操に参加したり、祭りや正月等の地域の行事に積極的に参加している。また、グループホームの行事として、年2回、近隣の方を招いて交流を図ったり、保育所や小学校ともつながりが持てるように取り組んでいる。	とんど祭りや神社の節分祭、神楽鑑賞、イモ掘りに至るまで、地域との関わり行事に参加している。近隣の保育園の催しに招待されたり、小学校の運動会では児童と一緒に玉入れをするなど、交流を深めている。また、グループホーム内で催す恒例の「お楽しみ会」「敬老会」は、皆で楽しめる、地域に根ざしたイベントとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	定期的に通信を作成し、役場や社会福祉協議会・保健センター、民生委員、居宅等近隣へ配布している。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	定期的に会議を開催し、グループホームでの利用状況・活動内容・事故の状況を報告し、話し合いを行っている。頂いた意見は職員に報告し、サービスの向上に生かしている。	各方面からの参加を得て、時には系列の事業所と合同で当会議を開催し、意見交換しながら、情報を共有している。今後はさらに応援者を増やせるよう、参加を呼び掛ける取り組みや、テーマづくりの工夫なども視野に入れている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議に参加して頂き、事業所の現状を知ってもらい、必要時には相談し、助言を頂いている。また、地域ケア会議に参加し、情報提供や協力関係が築けるように努めている。	日頃から地域包括支援センターの職員と、相談や研修などで連携を図っている。また年四回、保健福祉センターでの地域ケア会議にも参加して、コミュニケーションに努めたり、近隣の小・中学校へ出向いて認知症サポーター養成講座を開き、交流の輪を広げ、積極的に協力している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>勉強会を行い、拘束による弊害を理解し、拘束のないケアの実践に向けて、話し合いを行っている。</p>	<p>なるべく、制約を加えない見守りによるケアに努めている。勉強会を通じ、スピーチロックも含めて、職員間で意識を高め、利用者の心の安全・身の安全を図っている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>高齢者虐待防止法の勉強会を持ち、利用者の保護・擁護者への対応を考え、適切な支援ができるように心がけている。また、日頃のケアのチェックを行い、自分自身の振り返りを行う機会を持っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>勉強会へ参加し、制度への理解に努めている。資料をグループホームに設置するとともに、必要があれば、ご家族の相談の窓口になる事を知らせている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約の際は文章と口答で説明を行い、確認を取りながら、理解、交付、同意を頂いている。改定時には、個々に説明を行い、理解を得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>年2回の家族会の機会に、運営推進会議を開催し、アンケートを実施し、意見を表せる機会を設けている。頂いた意見は職員に報告し、日頃のケアの見直しに生かしている。また、面会時には、利用者の状況を伝えながら、ケアの要望を伺うようにしている。</p>	<p>運営推進会議と家族会を合わせた、和やかな集いを年二回設け、率直な意見や要望をうかがっている。それらの集約から、排泄支援で、肌にかぶれの症状がある利用者には布パンツとパッドの対応を試みた結果、改善につながったケースがある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月に1回、常勤対象に業務改善委員会を開催し、日頃の業務の確認等を行っている。また、全職員対象には全体会を行い意見を出し合っている。意見は議事録にして、代表者も確認している。</p>	<p>日々の申し送り時はもとより、月一回の業務改善委員会や年一回の全体会で意見交換し、一人ひとりに合わせた介助法や業務改善策を職員間で話し合い、ケアの向上につなげている。法人の研修や教育システムが充実し、スタッフのモチベーションアップや職場環境の整備にも尽力している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>社員寮や託児所を完備している。また、介護福祉士や介護支援専門員の資格を取得する職員には、勉強会が開催されるなど、向上心を持って働きやすい職場環境に努めている。また、異動職員にはコーチャーをつけ、業務の指導、相談等ができるようにしている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>随時、職場外研修に参加できるように配慮したり、定期的にグループ内でスキルアップ勉強会を開催している。参加した職員は全体会で講師として伝達講習を行っている。年に1回、部署別業務改善発表会を設け、担当を決め、自主的に業務に努められるように働きかけている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>同グループ内での交流はもちろん、事業所外でも研修・勉強会等のネットワークを作り、サービスの質を向上に生かしている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>利用前、利用時に、本人としっかりと話をする機会を持ち、困っている事や要望を聞き、全職員に伝達している。本人が難しければ、家族から要望を聞いている。また、利用後は状態観察を行い、早く環境に慣れていただけるよう、声掛け誘導に努めている。知り得た情報は、全職員で情報を共有しケアに生かしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>利用前または利用時には、家族と話す機会を持ち、困っている事や要望を聴いている。また、その内容は全職員で共有し、ケアに反映させている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>相談員をはじめ、他職種と連携を取りながら、最善の支援ができるよう対応している。希望があれば、いつでもグループホームの見学も、自由にできるよう受け入れている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>家事や畑での野菜づくりなど、利用者の持てる能力を見極めながら、それぞれの力が生かせるよう、利用者と職員が協力しながら、作業活動に取り組んでいる。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>面会時には居室でゆっくりと過ごせるよう、お茶を出したり、利用者と家族とのふれあいの場を作っている。また、正月やお盆の外泊や日頃の外出等をすすめたり、一緒に過ごせる機会が持てるように努めている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>地域のボール体操や行事に参加する事で、馴染みの風景や場、人とふれあう機会を持っている。</p>	<p>利用者の娘さんが、食事介助のため通ってくださるケースがあったり、定期的に来訪するボランティアのオカリナ演奏や日舞なども、皆の楽しみとなっている。保育園児とのふれあいや訪問理美容ほか、馴染みの関係性を大切に継続している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士がふれあいが持てるよう、一緒に作業や家事を行ってもらっている。作業等に参加できない利用者には、散歩等に出かけたり、傍で会話を持ったりして、孤立する事がないように努めている。また、三度の食事が、ホールで顔を合わせてできるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスの利用が終了しても、必要とされる家族の相談には随時、対応している。また、入院された方のお見舞いに行く等、関係を大切にしている。また、家人の希望に沿い、早い段階での再利用が出来るよう支援している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人と話をし、希望や意向の把握に努めている。本人からの聴き取りが難しい場合は、家族から話を聴き、本人の得意な事等を把握する事で、ケアに生かしている。	日々の生活の中でふれあいの時を大切にし、利用者の行動心理や思いを汲み取り、ケアに繋げている。言葉での把握が困難な場合、ノンバーバルの動作等での方法や、家族からの聴き取りなどで、意向を見極めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人や家族に、生活歴や暮らし方等について話を聴き、情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の行動や会話、心身の状態等を記録に残している。申し送りを通して、職員間で情報を共有し、現状把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人、家族からもらった情報をもとに、介護計画を立てている。定期的にみんなでモニタリングを行い、計画の見直しを行っている。他職種との連携を持ち、より良く生活できるよう支援している。</p>	<p>職員で毎月モニタリングを行い、半年毎にプランの見直しを行っている。日々の申し送り時にも、スタッフで意見交換し、本人、家族のニーズに合わせ、関係者一同で協議しながら、現状に即した介護計画を立案している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の状況や変化については、記録に残すとともに、しっかりと申し送りを行い、情報を共有しながら、ケアに努めている。モニタリングを行い情報を共有し、介護計画に反映させている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>地域で行われる行事やお祭りに出かけ、地域とのつながりが作れるよう支援している。時には、家族の相談に乗ったり、本人だけでなく、家族も含めて柔軟な対応に努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域で行われている介護予防教室にかけ、地域の方と一緒に体操を行っている。地域の行事の節分祭では神社に参り、玉串を奉納させてもらったり、年男、女の利用者の方には、豆まきをさせてもらっている。利用者が豊かな暮らしができるよう、支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ医は希望に沿って対応している。状態の変化には、早めに受診を行いながら、家族にも状況の報告を行っている。</p>	<p>ほとんどの利用者が協力医にかかり、週二回の往診、訪問看護は週一回の体制で健康管理されている。インフルエンザ発症時には、グループホーム閉鎖や解除などの細やかな情報も家族に伝え、感染症対策に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>訪問看護ステーションと医療連携を取っており、訪問日には状態を報告し、助言を頂いている。随時、異常や心配事があれば、相談し、適切な指示を頂いている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には介護要約を作成し、情報提供を行っている。入院後には訪問し、安心されるよう声をかけたり、状態の把握に努めている。再度利用される際には、状態を皆で把握し、スムーズに適切なケアができるように努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>契約時、重度化対応・終末期ケア対応について、口頭で説明している。本人・家族の意向にて、看取りの利用はまだない。</p>	<p>重度化した場合、個々のニーズに寄り添うケアに努める姿勢がある。今のところ、看取りの経験はないが、医療関係のバックアップ体制もあり、今後は職員の研修も含め、最期までその人らしく過ごせるような取り組みを検討している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>AEDを設置しており、定期的に急変時の対応・救急処置等の勉強会を持っている。また、年2回の消防訓練時には、消防署の方から、使用方法について学んだり、心肺蘇生法の研修を行っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>地域と「災害救護応援協力協定」を結んでいる。年に2回は防災訓練を行い、そのうちの1回は地域との合同で行っている。防災設備の取り扱い方や避難手順等は、随時確認している。災害時に適切に対応できるよう、マニュアルを整備している。</p>	<p>年二回の防災訓練のうち一回は地域と共に行い、消防署との連携を深め、様々な非常時にも救護要請できる関係性を構築している。AEDの設置など利用者の急変時の対応や、備蓄の整備他、防災システムを整えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ケア時にはプライバシーを守り、傷つけない対応を心掛けている。また、職員同士が適切に対応できるよう、声掛けを行いながらケアに当たるよう努めている。	トイレ誘導の際の声掛けのトーンや、椅子を引く時にも一声かける事などに留意し、個々の人格や尊厳を損ねないケアをこころ掛けている。バランスの取れたコミュニケーションに配慮しながら、各々のプライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	言葉がうまく出てこない方にはスキップや五感を刺激出来るようなケアを行ったり、個々に応じたコミュニケーションで、本人の思いが表せるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その日一日をどう過ごすか、利用者を変えて話をしている。出来るだけ希望に沿った過ごし方ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その時に合わせて、自分で衣類を選び着用できるように支援している。定期的に近所の美容院へ行ったり、行けない方にはグループホームに來訪いただき、散髪をしてもらっている。その人らしい身だしなみができるように努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員と一緒に野菜の下ごしらえをしたり、盛り付け、配膳の準備に関わっている。利用者同士が協力して、各々が出来ることを行ってもらっている。	傍の畑で採れた新鮮な野菜などが食卓を彩り、一緒に収穫した話をしながら、職員共々和やかな食事になるよう心がけている。調理の手作業や盛り付けなど、生活動作の向上も含め、楽しみながら手伝っていただき、クリスマス会にはデコレーションケーキを手作りしたり、干し柿作りなど、季節感のある支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事、水分の摂取量は記録に残し、把握している。水分量が少ない方には少量を小分けに提供したり、味を変えたりしている。また、家人から本人好きなお菓子を持参してもらい、それと一緒に飲んでもらう工夫をしている。嚥下状態の悪い方にはトロミ剤を使用したり、自助具（らくらくコックン）で介助している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後には口腔内の確認や残渣物を取り除く等、個々に合わせたケアを行っている。就寝前には口腔ケア、義歯洗浄を行い、口腔内の清潔保持に努めている。また、義歯の不具合や歯の痛み等があれば、早めに歯科に相談している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	利用者個々の排泄パターンを把握し、トイレに行きたいというサインを見極めて、個々に応じたケアが行えるように努めている。出来るだけトイレで排泄ができるよう支援している。パッドの交換時には、声かけの工夫を行っている。	各々のパターンに合わせ、タイミングを観ながらトイレ誘導している。便秘対策として飲み物や、自家製野菜をふんだんに取り入れる工夫など、自然な排便を促している。特に、夜間の見守り対策として寝具や室内履きに鈴を取り付け、スムーズな支援につなげる工夫がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	自然排便が出来るよう、適度な運動と十分な水分摂取に努めている。起床時に冷たいお茶を飲んでいただいたり、グループホームの畑で採れたヤーコン（野菜）を食べていただき、気持ちの良い排便ができるよう努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	湯の温度等、本人の希望に合わせて入浴ができるよう支援している。利用時には談話を行うなど、ゆっくりと入浴ができ、職員とのコミュニケーションの場となっている。また、近くの温泉に行く等、普段と違った環境で入浴が楽しめるよう工夫をしている。また、家族の希望で、定期的に温泉に行かれる方もおられる。	基本は週二回、午前は十時から、午後は一時半から四時までの体制で、なるべく個々の要望に合わせてながら支援している。マッチングも考慮し、リラックスできるように配慮している。また、身体状況を加味しながら、足浴やシャワー浴も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	天気の良い日には、日光浴や散歩に出かけたり、日中、個々に合った活動を提供し、充実した日を過ごすことで、夜間の安眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個々の薬の目的や用法を理解した上で、確実に服用できるように支援している。必要に応じて、口腔内に薬を入れ服用するまで確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	グループホームでの生活に役割や生きがいを持てるように、利用前や家族からの生活歴の情報をもとに、畑仕事や外出支援、グループホームの掃除など、本人に合った活動を提供している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日に合わせて、散歩や日光浴へと外出できる機会を増やしている。また、地域の行事やドライブなど出かける機会を持っている。	日頃から畑に出たり、辺りを散歩したり外気に触れる機会が多い。天気の良い日には玄関外にベンチを置き、日光浴をしながら談笑のひとつときを楽しんでいる。また、春には土師ダムへ桜を、秋には寒曳山の麓へ紅葉を愛でにドライブで出かけるなど、意向に沿った支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者、家族と相談し、自己管理や精神安定のため持たれている方もおられる。予防体操時には、自分の財布の中から利用料を支払われるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>希望時には、家族に電話が出来るよう支援している。毎年、年賀状を書いて出している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>日中、カーテンや窓を開け、自然の光や風が入り、戸外の音に耳を澄ませ、季節を体全体で感じられるような工夫をしている。昔懐かしい音楽を流し、皆で歌う事で心地よく過ごせるよう工夫をしている。季節の花を育て飾る事で、目でも季節感じていただけるよう配慮している。</p>	<p>大きな窓から陽の光がたっぷりと入り、周りの風景や地域の季節毎の催しが伺えるリビングには、畳敷きのコーナーがあり、冬場は掘炬燵が出来て、くつろげるスペースとなっている。床暖房で温かく、全体的にゆったりした雰囲気があり、笑い声や笑顔にあふれた家庭的な居心地の良い空間づくりがなされている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ホールの畳には炬燵を、テレビ周辺にはソファを設置している。そこで気の合う利用者同士が話をしたり、作業を行ったりと、個々が思い々に過ごせるような居場所づくりの工夫をしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>寝具等、使い慣れた物を持ってきて頂き使用している。各居室にボードがあり、家族からの手紙や思い出の写真や日々の写真が飾れる様にしている。</p>	<p>居室の入口床は、アーチ状の色別で分かりやすく工夫され、部屋の壁に「ひのきボード」を設置し、思い出の写真などを飾り、快適に落ち着いて過ごせるよう配慮がなされている。洗面台でちょっとした洗い物が出来たり、ベランダ越しには稲刈りの様子も見える、日当たりのよい居室となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>各居室には色違いのサークルがあり、自室がわかりやすいようにしてある。また、自室のわかりにくい方には、名前を貼る等の工夫をしている。トイレの場所は張り紙をしたり、同じ場所のトイレに誘導する事で、場所を覚え、一人でも行けるよう工夫している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム新庄

作成日 平成29年1月29日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	引き続き、事業所の力を活かした地域貢献に努める	事業所の力を活かした地域貢献に努める	<ul style="list-style-type: none">・小、中学校の福祉分野の授業の協力を行う。・認知症アドバイザーとしてキッズサポーター養成講座に積極的に参加する。	H29年2月 ～ H30年1月
2	23	本人、家族が満足できるサービスを提供していきたい	一人一人の人格を尊重し、本人・家族の思いに添った支援を行う	<ul style="list-style-type: none">・本人、家族と話す機会を増やして適切な介護計画を立て実践していく。	H29年2月 ～ H30年1月
3	13	職員一人一人がより適切なケアが実践できるようにする	職員の知識、技術の向上を図る	<ul style="list-style-type: none">・毎日の申し送り時の疑問点を出し合ったり、月1回の業務改善委員会では日頃のケアに対する問題点を上げ改善していくようみんなが意見を出していく。・月1回のモニタリングをしっかりと行う・全体会ではグループの勉強会の伝達講習を行ったり、外部の研修にも積極的に参加し学ぶ姿勢を持ち知識、技術の向上を図る。	H29年2月 ～ H30年1月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。